【農林水産研究指導センター　研究Now】vol. 109	令和3年3月22日発表

養殖用ヒジキ人工種苗ロープの量産化技術の開発

【研究のポイント】

【なぜ人工種苗が必要なのか？】

ヒジキ養殖は、秋に採取した天然物をロープに挟み込んで行います。ヒジキ養殖の規模は年々拡大しており、天然を採取する漁業者もいることから、天然資源の枯渇や養殖規模の頭打ちが危惧されます。そのため、天然資源に依存しない養殖技術の開発が必要です。当グループでは、天然ヒジキから得た受精卵をロープ上で生長させて養殖用種苗として利用する人工種苗ロープの作出研究を行っています。本年度は養殖規模の拡大を目指して量産化に取り組みました。

【人工種苗ロープの量産化技術の開発】

本年度は量産化に向けて78mの人工種苗ロープを作成、現地養殖試験に供しました！

収穫前の養殖ヒジキ

中津港外護岸における天然ヒジキの繁茂状況

【研究の成果】

【人工種苗ロープを用いたヒジキ養殖の試験行程】

- ●6月に成熟した天然母藻から受精卵1,793,610個を採卵、78m分のロープに散布しました。
- ●ロープへの散布後、種苗が葉長5㎜以上に生長するまで屋外水槽で約6か月間育成し、12月に現地養殖試験に供しました。
- ●現地養殖試験は、【べた流し方式（ロープの両端にブイとアンカー付けて沖合に浮かべる方法）】と【支柱方式（干潟に立てた支柱にロープを張る方法）】で行っています。
- ●生長し刈取りできるサイズになった人工種苗は、5月に収穫する予定です。

中間育成 ⇨

現地養殖試験 ⇨

表1　人工種苗ロープ作出の結果

	採卵（6月）	現地養殖試験開始時（12月）
受精卵数または種苗数	受精卵：1,793,610個/78m	種苗：4,680本/78m
mあたりの種苗数	22,995個/m	60本/m
葉長	―	8.0mm

【生産者の声】

大分県漁協くにさき地区
運営委員長　濱 松 豊 信

私たち漁船漁業を営む漁師は、現在非常に厳しい状況にある。資源が激減し、獲れる魚が少なくなった。燃料の高騰も長引いている。若い漁師も少なくなり、浜に活気がない。そんな中、健康志向でヒジキの需要が増え、大分県産ヒジキの値段が高騰している。そこで、私たちは天然ヒジキを挟み込んだ養殖に取り組んでいるが、天然ヒジキを採る漁師もいることから、ヒジキがなくなるのが心配。人工種苗ロープの大量生産の研究は、非常にありがたい。私たちの収入アップにつながるように、早急に大量生産を実現して欲しい。

【連絡先】

担当：　農林水産研究指導センター　水産研究部　北部水産グループ
養殖環境チーム
TEL　：　0978-22-2405
住所：　大分県豊後高田市呉崎3386番地